

# 地質学セミナー

 日時:9月 12日(水)  
17時~

場所:総合研究棟B棟 110 教室

## 岐阜県郡上八幡地域の石灰岩から産するコノドント混在群集

発表者① 生物圏変遷科学分野 内海麻衣

岐阜県美濃地域には美濃帯の中・古生層が広く分布している(脇田・岡村, 1982)。美濃帯を構成する中部~下部ジュラ系である那比川層は, 中期ジュラ紀以降に堆積した砂岩, 頁岩で構成されており, ペルム紀からジュラ紀までの各時代の化石を産するチャート, 頁岩, 石灰岩, 緑色岩のレンズ状岩体を含む(脇田・岡村, 1982)。Igo (1989) によりそれら異地性岩体のうちのひとつである岐阜県郡上八幡地域の安久田岩体の石灰岩から前期ペルム紀~後期三畳紀の年代を示すコノドントの混在群集が報告された。安久田岩体のほかにもコノドント混在群集の報告はいくつかあるが, いまだその成因についてはあきらかになっていない。現在, 安久田岩体の分布する丹波~美濃~足尾帯ではペルム系石灰岩の上位に三畳系石灰岩が累重する層序が見出されていない(佐野・小嶋, 2000) ために, ペルム紀~三畳紀のコノドント混在群集の成因を解明することは, 当時の遠洋性浅海域の炭酸塩岩堆積環境を明らかにする上でも重要であると考えられる。

本研究では, 郡上八幡地域周辺に分布する安久田岩体中の石灰岩体についてより詳細・広範囲な調査を行いその岩相を記載することと, 石灰岩から産出するコノドント混在群集の成因について, 石灰岩の岩相記載, 微岩相観察および産出化石の検討によって解明することを目的とする。

今現在, 卒業研究で調査を行った地域の葉理状石灰岩と似た岩相を示す美山地域および安久田地域の詳細な調査を行い調査範囲を拡大している。コノドント化石の検討および石灰岩の岩相記載, 微岩相観察による分類をより詳細に調査し, コノドントの混在群集の成因を明らかにしたいと考えている。

美山地域の主な岩相は塊状石灰岩および層状石灰岩であり, ところどころに礫質石灰岩および葉理状石灰岩を挟在する。葉理状石灰岩中の一部にスランプ褶曲が観察されることから未固結な段階で地滑り等が起こったと伺える。

このたび新しく見つけた安久田地域の露頭では大規

模な葉理状石灰岩, 礫質石灰岩, 塊状石灰岩が分布している。安久田地域の葉理状石灰岩は主に赤色の砂~シルトサイズの石灰岩粒子の葉理のなかに, 拳大程度の白~灰色の石灰岩礫が点在している。露出している葉理状石灰岩も比較的大きく, 周囲にもこの葉理状石灰岩由来と思われる土壤が広く分布していることから, 堀越峠地域の葉理状石灰岩より非常に広範囲に広がっていると考えられる。

また, 混在群集の成因を考えるにあたり混在群集の実態をより詳細に知るためにチップ別酸処理を今現在行っている。過去に行ってきた葉理状石灰岩中のコノドント化石の抽出はいずれもサンプルをバルク状にしてからの酸処理であった。チップ別酸処理では, 葉理と平行な方向にサンプルをスライスし, チップごとに酸処理をおこなった。その結果, いくつかの葉理の中でもコノドントの混在が起こっており, ハンドサンプル以上に小さい単位でもコノドントの混在が起こっていることが判った。

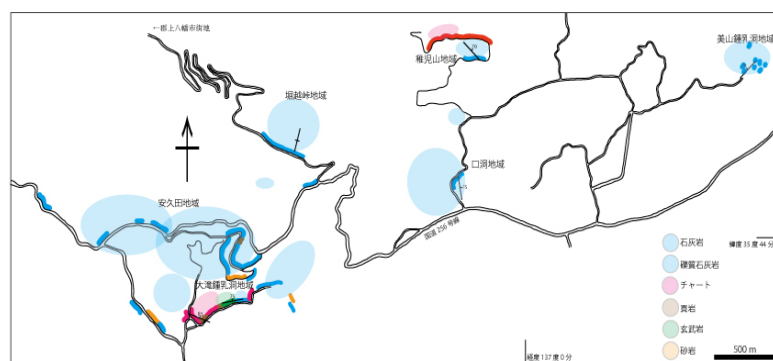


図1. 郡上地域岩相分布図